

入資 料V

明治六年五月下浣ヨリ 〔島根縣〕 聴訟課

『訴訟事件銘細録』（第二号ノ二） について（二）

—— 松江地方裁判所所蔵裁判史料より ——

広島修道大学「明治期の法と裁判」研究会

代表 居石 正 和^{*1}

高^{*2}・上川内 宏^{*3}

紺谷 浩 司^{*4}・矢野 達 雄^{*5}

広島修道大学「明治期の法と裁判」研究会（五〇音順）
代表 居石 正和 ^{*1} 広島修道大学教授（日本法制史）

加藤 高 ^{*2} 広島修道大学名誉教授

上川内 宏 ^{*3} 広島修道大学客員研究員

紺谷 浩司 ^{*4} 広島大学名誉教授

矢野 達雄 ^{*5} 広島修道大学名誉教授

目次

一 凡例

二 目次表（九六）～（二二六）

三 史料（九六）～（二二六）

四 写真（三葉）（以上、『修道法学』第四五卷第二号）

五 目次表（二二七ノ一）～（二六五）

六 史料（二二七ノ二）～（二六五）（以上、本号）

五 目 次 表 (二)

番号	年度・番号	出訴／上訴日	終局・年月日	訴名／差縄	結局	事件担当官	原告／申立人 代人／代言人	被告／相手方 代人／代言人	備考
131	同年 第三百三十一号	同年 七月十四日	同年 七月十八日	貸金滞一件	示談行届・願書下渡		I H 揉盛 (医)	M O 萬右衛門父子	
130	同年 第三百三十号	同(年) 七月十日		郡境界差縄一件					
129	同年 第二百二十九号	同年 七月五日		道祖神社木伐 採差縄一件	一同承服の上済口 証書差出	少属 鶴岡 瞭	I U 惣代 権左衛門	□□村百姓一同	
128	同年 第二百二十八号	明治六年 七月五日	同年 七月二十一日	用水掛り差縄 一件	願下げ・開届	少属 鶴岡 瞭	H G 惣代 誠右衛門 外一人	N E 村上分百姓 惣代 N K 友右衛門 外一人	
127の2	同年 第二百二十七号ノ 二	(明治)六年 七月三日	明治六年 九月廿四日	屋敷地差縄一 件	済		K Z コヨ	K Z 定市	
127の1	一 第二百二十七号ノ	明治六年 七月五日	明治七年 一月十五日	名儀差縄一件	一同承服の上済口 証差出・解訟		I H 吉左衛門 (雑業)	M M 政兵衛 (雑業)	

140	139	138	137	136	135	134	133	132
第四百十号 同年	第三百三十九号 同年	第三百三十八号 同年	第三百三十七号 同年	第三百三十六号 同年	第三百三十五号 同年	第三百三十四号 同年	第三百三十三号 同年	第三百三十二号 同年
同(年) 七月二十二日	同(年) 七月十二日	同年 七月十三日	同年 七月十四日	同年 七月十九日	同年 七月十八日	同年 七月十七日	同年 七月十七日	同年 七月十七日
明治七年 三月二十九日	同年 八月四日	同年 八月	同年 九月三十日	同年 十一月四日	明治六年 八月廿七日		明治七年 二月四日	同年 九月十三日
件 儀二付差纏一	伯母跡名跡之 一件	買米滞差纏一 件	売品代金滞一 件	庵附田畑等差 纏一件	田地差纏一件	買米差纏一件	貸金滞一件	古道具代滞一 件
解訟願の通聞届	示談行届・吟味下 げ・願出の通聴届	一同承知・示談行 届・吟味下げ願上	解訟	裁許	地所紛乱に付租税 課へ廻す		済口証書差出・解 訟願の通り聞届	示談行届・済口証 書差出・聴届
					鶴岡			
(農) AK 乙松	KM 嘉太郎	(農) NS 栄太郎	(商) T 徳太郎	YS 忠兵衛	□□村正副戸長	KM甚助 手代 喜兵衛	(商) IH 源造	HS G 武三郎 (士族)
(住職) HS 元貞	SM 永之助 外一人	BK商店 IM 調之助 NT 鐵藏	(商) KT 五郎	RK寺		BK商店	(農) WD 四郎市	YZY 豊助

明治六年五月下流ヨリ (鳥根縣) 聴訟課 『訴訟事件銘細録』(第二号ノ二) について(二)

一〇〇〇(一〇〇)

149	148	147	146	145	144	143	142	141
同年 第四百四十九号	同年 第四百四十八号	同年 第四百四十七号	同年 第四百四十六号	同年 第四百四十五号	同年 第四百四十四号	同年 第四百四十三号	同年 第四百四十二号	同年 第四百四十一号
同（年） 七月廿八日	同（年） 七月二十八日	同（年） 七月廿八日	同（年） 七月廿日	同（年） 七月二十七日	同（年） 七月二十七日	同（年） 七月二十二日	同（年） 七月二十二日	同（年） 七月廿二日
同年 十月五日	同年 十二月十四日	同年 十月廿四日	同年 九月十九日	同年 八月廿三日	同年 九月十二日	同年 八月二日	同年 九月五日	明治六年 十月五日
件 銃差引出入一	貸金出入一件	差纏一件	夫婦離縁差纏一件	滞金一件	貸金滞差纏一件	絶交和解願一件	山売事差纏一件	銀談差纏一件
願下げ	済	願下げ	示談行届・吟味下げ願出・聴届	取揚げ難く願出下げ渡す	取揚准理不相成・書面下渡	和睦相整吟味下願出・開届	届 济口証書差出・聴	届 一同承服の上・示談济口・解訟願聞
(農) AD 嘉平	KS 唱生	(農) KS 得兵衛	FK 正助	(雑) TN 信右衛門	(農) HZ 運藏	MY 政右衛門	SD 助左衛門	TH 商右衛門
元母里藩鉄方役所	IZY 大七	(組家内) KS 恭二郎	(工) T 儀三郎	(商) FY 勘四郎	(農) AD 仁平	MY 与九郎	KM 忠助	TN 健三郎

158	157	156	155	154	153	152	151	150
同年 第五百五十八号	同年 第五百五十七号	同年 第五百五十六号	同年 第五百五十五号	同年 第五百五十四号	同年 第五百五十三号	同年 第五百五十二号	同年 第五百五十一号	同年 第五百五十号
同年 八月十二日	同年 八月十二日	同年 八月四日	同年 七月廿五日	同年 七月三十日	同年 七月三十一日	同(年) 七月三十一日	同(年) 七月三十日	同(年) 七月二十九日
	明治六年 八月廿五日	明治七年 一月廿四日		同年 八月四日			同年 十二月四日	同年 十一月七日
縁談差縄一件	貸金滞差縄一件	業業損金割合 差縄一件	買米差縄一件	売物差縄一件	金談差縄一件	八幡社敷地差 縄一件	金談差縄一件	為替入金出入 一件
	一同承服・濟口証 書差出・聞届	一同承服・濟口証 書差出・解訟	一同承服之上 <small>(マ)</small>	吟味下げ願出・聞 届	一旦承服の上帰 国・飾磨縣へ懸合 中未決	租税課へ書類相回 す	濟	鳥取県へ願入差添 入共差遣わせ、懸 合わせる
		奉 鶴岡 少属						
FI 善十	SO 源藏 (農)	TM 正登 (貫属士族)	YM 菊助	HD 助三郎	BB 矢三郎	I 茂三郎 (雜)	SK 林右衛門 (商)	
FI 運平	NI 金三郎 (農) 外一人	IG 百次郎 (雜業)	IY 重兵衛	TY 林之助	YM 禰一郎 (貫属士族)	H 宗兵衛 (工)	YM 貞市 (商)	

明治六年五月下流ヨリ (鳥根縣) 聴訟課 『訴訟事件銘細録』(第二号ノ二) について(二)

九八(九八)

よし跡相続可為致

筈之処同村重太郎ト申者方へ嫁シ一子モ有之依テ夫婦トモ政兵衛へ貰受可申若

不承引ニ候ハ、政兵衛共身許へ可立退段原告ヨリ申立被告ヨリ難貰受申出

差纏ニ至リ候処政兵衛躰入後七年ヲ経既ニ戸主ニモ相成居候ヲ婦メドメの病死之後

吉左衛門ヨリ故障申出候ハ原告不條理重太郎ハ常三郎嫡子ニテ同家

相続可致者ニ付政兵衛へ可貰受筋無之然上ハ親類一同熟和協議之上

更ニ相続人取極可申旨夫々及理解候処一同承服之上濟口証書差出之

明治七年一月十五日 解訟

※ 明治五(壬申、西曆一八七二)年

【〇三三B】【二二七〇二】屋敷地差纏一件

(明治) 六年七月三日出訴

一 出雲国飯石郡□□村KZコヨ同村KZ

明治六年五月下流ヨリ (島根縣) 聴訟課

『訴訟事件銘細録』(第二号ノ二)について(二)

九六(九六)

定市へ懸リ屋敷地差纏一件

(朱) 〔百二十七号ノ二〕

(朱) 〔九月廿四日 濟〕

【〇三三A】【二二八】用水掛り差纏一件

明治六年七月五日出訴

一 出雲国秋鹿郡NE村西分百姓四十八人惣代HG誠左衛門外忝人ヨリ同邨上分惣代NK友右衛門外忝人江掛り用水

掛り差纏一件

(朱) 〔百二十八号〕

奉 少属 鶴岡 瞪

別紙

右一件准理中戸長ヨリ別紙之通願下ヲ及候ニ付伺之上聞届候事

第六区秋鹿郡NE村西分用水之儀ニ付上下人別及争論

再願ヲ茂差出候ニ付色々説諭仕候処下筋人別一同承服

【〇三三B】

再願御下ケ被下度旨願出申候間此段奉願上候也

第六十区戸長

明治六年七月二十一日

南波 友八郎

〔〇三四A〕〔一二九〕【道祖神社木伐採差縄一件】

明治六年七月五日出訴

一 出雲國秋鹿郡□□□郵農一同惣代IU権左衛門
ヨリ同國同郡□□□村百姓一同へ掛道祖神社木
〔〇〕伐採差縄一件

〔朱〕
〔〇百二十九号〕 奉 少属 鶴岡 燈

一 応調査取掛候得共双方確証無之申伝述之空論申口齟齬見込難相立
依テ今般実地検査之上篤ト取札候処原告□□□村ヨリハ村内字一
本松則

□□□村境ニテ往古ヨリ道祖神祭来宝永三丙戌^{*}三月以後度々社寺
調査ニモ

記載差出有之既ニ昨六年^{*}一般社寺境内検査ヲモ□□□村ヨリ竟
野山与曾

根水流境ト申伝炳然致居然ル処昨年六月中無断□□□村ヨリ道祖神境
内松木伐採いたし候ニ付及掛合候処右道祖神ハ往古ヨリ□□□村ニテ
祭来社寺調査ニモ記載差出居両村境ハ都テ往還有之道祖神ハ

〔〇三四B〕

勿論野山等□□□村関係之場所ニ無之段申出往来ハ便宜ノケ所へ
時々転シ古道跡モ巖然有之都テ方今之往来ヲ両村境ト致候テハ多
分奪地被致

不相濟義故古昔今申伝通野山ハ曾根水流境トシテ道祖神松木伐採
之分ハ速ニ□

□□□村へ差返シ候様被成下度段申立被告□□□村ヨリハ村内字伊貝
曾根鈴山即□

□□□村境ニテ道祖神古来ヨリ祭居宝曆十四甲申年^{*}以来数度社寺
調査ニ記載

□□□村ヨリ差出有之昨六年一般社寺境内検査之砌モ調査差出候得
共野山内ニ勸

請有之道祖神ナレハ検査ニハ不及趣ニ付其俣いたし置余リ老木ニ
及ヒ依テ昨年六月

村中示談之上同村新六ナル者へ価金四円余ニ売払伐採之処□□□
村ヨリ故障申出右ハ

前文之通社寺調査ニモ古来ヨリ書出シ且右近辺ハ都テ往来ヲ以両
村境界判然致居

勿論野山等□□□村関係無之場所柄故向後右様異論不申出様被成
下度旨申立

差縄ニ及ヒ候義ニテ□□□村ヨリモ道祖神書出シハ致居候得共野
山公有地右場所ニ有之

義ハ古書類ニ少シモ記載無之野山ハ悉皆□□村分ニ無相違道祖神
之処ハ□□□□村方へ

曲り入込居故古道跡ヲ見通シ松古木道祖神跡ニ尠本残居ヲ以兩村
境木トナシ東ハ□□

□□村西ハ□□□□村ト釐正シ向後紛敷義無之様可致且昨年中□□村
ニテ伐採ノ松木ハ

中央ニ相当尚社寺調書ニモ往古ヨリ兩村記載差出有之二依り代価
中分シ金二円八錢余ハ

□□□□村へ可相渡旨夫々及理解候処一同承服之上隣村之事故尔來
互ニ実情ヲ

運ヒ睦間敷可致積双方申分無之段済口証書差出ス

*₁ 宝永三（丙戌、西曆一七〇六）年

*₂ 明治六（癸酉、西曆一八七三）年

*₃ 宝曆一四（甲申、西曆一七六四）年。なお、同年六月二日
から明和に改元

【〇三五A】【一二三〇】【郡境界差纏一件】

明治六第七月十日出訴

一 出雲國AK郡SN郡々境差纏一件

明治六年五月下流ヨリ〔島根縣〕聽訟課『訴訟事件銘細録』（第二号ノ二）について（二）

九四（九四）

（朱）

【〇】

（朱）
【〇百三十号】

【〇三六A】【一三一】【貸金滞一件】*₁

明治六年七月十四日出訴

一 出雲國島根郡□□町医IH揉盛より同國

同郡□町MO萬右衛門父子へ係り貸金滞一件

（朱）

【百三十一号】

右訴答共取調候処右ハ萬右衛門取次ヲ以諸人へ貸付

致候義且丁卯十二月晦日*₃以前ニ係リ難取揚件ニ有之二付
被告へハ取次之事ナレハ早々返却之道可相立旨申聞

置程原告へハ取揚かたき件モ有之候ニ付一ト先下方ニ於テ
可遂示談然ル上愈（々々）行届兼ル節取揚遍キ分ハ

速ニ准理可致旨及理解伺之通願書下渡候事

七月十八日 済

*₁ 本件の記録全体が朱線で囲まれている

*₂ 朱書きのバツ印あり

* 慶応三（丁卯、西曆一八六七）年

身代限之義ハ見合呉候様申立何程成共本人稼出シ
ヲ以追々返済相成候様致シ度趣ニ依テ嚴敷督責及ヒ
候処来十月中金壹円払込其余八円七十二錢二厘ハ

〔〇二七A〕【一三三】【古道具代滞一件】

明治六年七月十七日出訴

一 出雲國第二區島根郡□□町士族H S G 武三郎ヨリ

同国第四十六區神門郡□□町Y Z Y 豊助へ係リ古道具

代滞一件

(朱)

〔百三十二号〕

右訴答共篤卜取調候処辛未十一月中*₂原告所持ノ古道具備錢
五百

廿五貫文ニ而売渡内錢百七十五貫文相渡殘錢三百五十貫文
早々可払出

約定之処被告豊助多分損毛いたし不得止滞金相成居候処

原告申立ニハ其後種々掛合候得共更ニ調金無之故速ニ受取

度申立被告ニテハ現今必至難渋何更返済候目的不相立候間

今来年賦返済致シ度段申立差纏相成候義之処年賦

等之義難及理解間成規ニ依テ身代限处分可取計之処

左候而ハ聊モ渡金無之次第二付事実原告へ申聞候処

〔〇二七B〕

毎月稼出ヲ以不実不相成様皆済致度段申立候ニ付尚
精々返済方之義及理解候処一同承服ノ上九月十月ハ
金五十錢ツ、其余ハ毎月金十錢ツ、稼出ヲ以皆済

可致積双方無申分示談行届キ済

口証書連印差出候ニ付伺ノ上聽届候事

九月十三日 済

*₁ 朱書きのバツ印あり

*₂ 明治四（辛未、西曆一八七二）年

〔〇三八A〕【一三三】【貸金滞一件】

明治六年七月十七日出訴

一 出雲国第七區意宇郡□□町工K B 臺之助第六區

同郡□□町商I H 源造ヨリ同国第六十七區島

根郡□□村農W D 四郎市へ係リ貸金滞一件

〔米〕
〔〇〕 〔百三十三号〕

調査取掛候得共被告四郎市商用ニ付登坂中之趣
ニ付喚起延引罷在候処今般帰国之上相對示談
ヲ遂ケ更ニ証文為差入明治七年[※]ヨリ同九年[※]マデ
三ヶ年賦ニシテ返済可致旨盟約ヲ成シ済口証書
差出之

書面解訟願之通聞届候事

〔〇三八B〕

明治七年二月四日

[※] 明治七（西曆一八七四）年
[※] 明治九（西曆一八七六）年

〔四〇〇A〕 〔一三五〕 〔田地差纏一件〕[※]

明治六年七月十八日差出

一 第三十八區神門郡□□村正副戸長ヨリ田地差纏一件裁判
願

〔米〕
〔百三十五号〕 奉 鶴岡印^{〔備印〕}

地所紛乱一件ニ付租税
課へ廻ス印^{〔朱印〕}

八月廿七日

[※] 本件記録全体が朱線で囲まれている

〔〇三九A〕 〔一三四〕 〔買米差纏一件〕

明治六年七月十七日出訴

一 出雲国第六區意宇郡□町KM甚助手代喜兵衛より

〔米〕 同區□□町BK商店へ係り買米差纏一件

〔〇〕 〔米〕
〔百三十四号〕

明治六年五月下洗ヨリ〔島根縣〕聽訟課 〔訴訟事件銘細録〕（第二号ノ二）について（二） 九二（九二）

〔〇四一A〕 〔一三六〕 〔庵附田畑等差纏一件〕

明治六年七月十九日出訴

一 楯縫郡□□村YS忠兵衛同村如意庵御磨山

ニ付本寺RK寺へ係り庵附田畑等差纏一件

〔米〕 ● 第百三十六号

〔米〕 〔十一月四日裁許〕

〔〇四二A〕【一二七】【売品代金滞一件】

明治六年七月十四日出訴

- 一 出雲國大原郡□村商T徳太郎ヨリ能儀郡□□町商KT五郎へ掛り売品代金滞一件

(朱)

〔第三百三十七号〕

(朱)

〔九月三十日 解訟〕

〔〇四三B〕

六年八月

原告 NS 栄太郎

被告 IM 調之助

被告 NT 鐵藏

以上

〔〇四三A〕【一三八】【買米滞差纏一件】

明治六年七月十三日出訴

- 一 出雲國意宇郡□□村農NS栄太郎ヨリ松江□□町BK商社^(マ)へ掛り買米滞差纏一件

(朱)

〔第三百三十八号〕

〔〇四四A〕【一三九】【貸家明渡差纏一件】

明治六年七月十二日出訴

- 一 出雲國意宇郡□□町KM嘉太郎ヨリ同町SM永之助外売人へ掛り貸家明渡差纏一件

(朱)

〔第三百三十九号〕

NS栄太郎ヨリ松江BK商店へ掛り買米差纏一件先般御訴訟申上
双方御調被成下候処右者栄太郎義請取米等閑ニいたし候ニ付為償
金藏敷賃受取米百俵引起ヲ以取引可致旨御理解之趣一同
承知奉畏候示談行届双方無申分連印ヲ以御吟味下ケ奉願上候

右訴答共篤ト取調候処右ハ四年以前原告所持之家敷
代価千貳百八拾五貫ニシテ致売事候ニ付居掛リ被告江其段
申聞候得共買受不出来由ニテ退先有之迄ハ此俵差置具
候様依頼ニ任セ申年中^キヲ見切ニ猶予致シ期限ニ至リ根ヲ押

同ク得買不申故同町N Y勝助江貳千八百貫ニテ売議定
〔〇四四B〕

致候ニ付約条通り明渡候様嚴備催促致シ候得共被告
ニテハ何分場所柄之家敷故是非買受度所存ヨリ難決者之
事故兎角ト延引相成卒ニ勝助ヨリモ限月相違之廉ヲ以テ
破談申出原告手前大ニ差聞之央是迄日延致シ遺義ハ忘レ
直段引下貳千貫文ナラハ可買受杯ト故障申立家敷不明
渡ヨリ差纏レ相成候処右ハ被告是非買受度故ヲ以テ無体ニ
原告仕法ノ妨ケ致シ候而ハ不條理ニ付早々可明渡尤モ他職
ト違イ鍛冶職之事ナレハ急速ノ移転六ヶ鋪情実も可有之
依而原告一層之憐愍ヲ以九月中迄猶予可致然上ハ一月
以來之家賃早々払出限月ニハ無相違可立退旨厚ク御理解
之趣一同承知奉畏候依之家敷ハ九月中ニ明渡シ一月以來之家
賃ハ早々可払出段双方無申分示談行届偏ニ御威光ト難有
仕合奉存候然ル上ハ約定之通堅相守以來右一件ニ付御願ケ間
敷義一切無御座候間何卒御吟味下被成下度連印証書ヲ以
願候間伺之上聽届候事

明治六年八月四日

* 朱書きの斜線あり

** 明治五(壬申、西曆一八七二)年

明治六年五月下流ヨリ〔島根縣〕聽訟課『訴訟事件銘細録』(第二号ノ二)について(二)

九〇(九〇)

〔〇四五A〕【一四〇】伯母跡名跡之儀ニ付差纏一件
明治六年七月二十二日出訴

一 出雲國大原郡□□村農A K乙松ヨリ同郡同村
(朱) NO寺住職H S元貞へ掛リ伯母跡名跡之儀ニ付
〔〇〕差纏一件

(朱)
〔第四百十号〕

調査取掛候内NO寺先住病氣ニ付為看護猶予願出
任其意ニ置候処相對遂示談右地所ハ原告乙松
伯母買受之事故同人方へ可差返旨熟談行届別紙
之通解訟願差出之

原告乙松伯母惠性持分田地同人死亡跡相統人無之ニ付
右田地名受之儀ニ付同村NO寺住職僧H S元貞へ
〔〇四五B〕

対シ昨明治六年訴訟同九月二十七日御取札中
同寺隱居米山病中ニ付元貞ヨリ御猶予奉願終ニ米山
死去彼是遷延相成居候処旧戸長中林祐之助用
係并惠性持分田地支配TDN紋左衛門等昨且之
場ヲ以双方仲濟ニ立入熟談之上実家之故ヲ以私方へ
(右地所引受濟方仕候約定)

書面解訟願之通聞届候事

明治七年三月二十九日

得止

右米四百俵ノ内式百俵為替ニ入置其余ハ昌右衛門持合ノ錢ヲ質入又ハ健三郎

種々周旋売米約定等ヲ以ON民助方へ米価払済壬申春迄持合候処意外米価不景氣利子重リ銀主よりハ促ヲ受不得止健三郎より

錢五百貫文之為替利子ニ差入延シ置候内倍米価下落終ニ又式千五百貫文之損失

其保通ニ商法見切質入ノ錢ハ昌右衛門より受戻シ然ルニ健三郎出金不足ニ付

數度談判ノ結末同人婦農畑地所価千貫文ニテ質入証書差遣候際是亦売買質入等堅ク被禁証券不相整遷延致シ居今般原告よりハ仲間商

無之健三郎一人ノ商法資金差問ノ由ヲ以借用金頼出テ從來ノ商家故難見捨時貸ノ條約より証書モ不取置錢式千貳百貫文貸渡然ル処

旧縣払米難引受場合ニ至リ内錢式千五百文之違約上より被引揚必至

切迫ニ付為埋合尚米四百俵大塚町ニテ買受売先モ手合セ洪益ヲ得ル様ニ

運ヒ置ト雖モ哀哉資金無之上ハ又損失不少間是非手合致具候度左スレハ

洪益ヲ得前借共併テ返償可致趣ヲ以又厚ク依頼ニ預リ平素慥ナル者故相違無之義ト一途ニ思ヒ込乍去持合金無之ニ付有合ノ錢式十二

〔〇四六A〕【一四一】【銀談差纏一件】

明治六年七月廿二日出訴

一 出雲國能儀郡□□村TH商^(ト)右衛門ヨリ同村

TN健三郎へ掛リ銀談差纏一件

(米)

〔第四百一十一号〕

右訴答共取調候処去辛未年中^{*}旧母里藩士ニ同婦農為差營業モ無之銘々商法思立ニ右兩人義ハ素ヨリ入魂ノ間柄故仲間売事ニ取懸リ旧母里縣^{*}

払米五百俵入籤有落札為入金錢式千五百貫文可差入積之処調金難出来

昌右衛門より式千貳百貫文健三郎ハ貳百貳十貫文上納然ル処米相場俄然下落

右入札難引受違約ニ依テ入金悉皆被引揚其後尚米四百俵大塚町ON民助より買受直ニ他へ売先手配ノ処年末ニ至リ破談致サレ不

駄賃渡候

処同町A Y半兵衛方へ為替イタシ残式千五百貫文健三郎より借受候趣

然ル処右米ニテ又多分損失ヲ醸成候由ニテ前後ニタ口共更ニ不埒明為替

銀ハ限月ニ至リ不得止自分より受戻シ都合四千六百三十文立替ト為リ厳敷督責及ヒ候テモ彼は猶予申出其后旧藩より賜リ地所

佃千貫文丈ケ内入致度由証書持參候際売買地ヲ被禁終ニ証印不相整追々遷延尔今不埒明必至難決イタシ居依テ速ニ

元利取立度段申立被告よりハ商法手代被相頼一応ハ断リイタセシナレトモ厚ク依頼ニ預リ旧情難黙止不得止承諾最自分ハ不馴之事故

M F 檜藏 O G 政藏 兩人へ委托共ニ手代可致積及示談候内幸
母里縣払米ノ触出有之昌右衛門へ示談入籤取斗米五百俵買受

内錢式千五百文之上納ヲ約シ然ルニ昌右衛門よりハ式千式百文ノ外難出来

由不得止錢式百文自分より弁納致遣シ然ル処米価大ニ下落損失不少故期日難仕更遷延違約セシヨリ終ニ入金ハ悉皆被引上初口ノ

商法若干ノ資金ヲ失ヒ氣ノ毒ニ思ヒ外貳人トモ勉勵周旋埋戻シノタメ尚米四百俵大塚町ニテ買受売先ヲモ約シ洪益ヲ得候際買主より

俄ニ被談ニ被及年末ニ至リ方向ヲ失ヒ式百表ハ為替ニ人尚昌右衛門持錢廿二駄A Y半兵衛方へ質入シ其余ハ自分働ヲ以種々

調金米主へハ価金払済壬申春中迄持越利益ヲ可得

一見込昌右衛門へ相談取斗然ルニ豈計ンヤ米価倍下落*

(〇四七A) 為替先よりハ期日促ヲ受昌右衛門ヨリノ頼無抛自分錢五百貫文再立替利*

上ケイタシ見合居候処倍低価終ニ又式千五百貫文損失ヲ為シ右ハ悉皆

昌右衛門商法ニテ自分ハ手代ニ付損失ニ關係無之右証跡ハ米四百俵ノ内七十表昌右衛門手許ニテ売捌為替^(〇四七)鉄^(〇四七)モ同様受戻シ

且質地証書ノ義ハ右商法多分損毛昌右衛門手前必迫之趣ヲ以金策方種々ニ被相頼真ニ氣ノ毒ニ思ヒ外ニ才覚ノ手段無之故一時貸地ニ

致シ遣候訳ニテ損金内入杯ニハ決テ無之ト申立是亦貸地ノ明文無之且残七百文之立替其外周旋中諸入費等迄償ヒ居難決加之

借金杯ト意外ノ義ヲ被申聞殆迷惑罷在全体昌右衛門よりハ借用金每ニ必証書可差出旨被相談從來些少ノ借用ニモ必ス確証差入

有之右一件ハ大金ト雖トモ無証之ヲ以テ昌右衛門ノ商法判然タリ手代ヨリ

損金弁償可致筋無之段申立差纏相成候義ノ処右ハ相互ニ無証ノ爭論原告ヨリ貸金ト申立ルト雖モ証書無之故貸金ヲ以難論

被告ヨリ手代申立候テモ昌右衛門ヨリ受取候帳簿モ無之悉自分名前

ニテ売事致居且檜藏政藏兩人共ニ手代百事示合勉勵致セシ旨喋々弁論スレトモ昌右衛門へハ貫キタル者ニ無之尚前後両度ノ

商法ニ多少出金モ致居結末価千貫文ノ□□□案文モ渡置手代ノ
 仕業トモ難論初度利促ヲ得ハ割賦可致旨約定有之上ハ仲間
 売事ニ可有之故ニ原告ニ証書モ無之又米七十表^(ト)為替錢共手許ニテ
 取捌クナラン被告ヨリモ多少出金且千貫文ハ地所モ可渡旨ヲ諾セ
 シナラン

坐視スル昌右衛門資金ヲ多出名目ヲ出シ東西奔走スル詎ヲ以健三郎
 出金少キハ至当之詎カ又仲間ヨリシテ双方共銘々記帖セシ乎以此
 觀之

仲間売事ヲ論シ損金四千五百貫文ヲ折半シ昌右衛門健三郎兩人
 各一半ヲ領受セシメ内錢七百二十貫文ヲ引殘千七百八十貫文ハ被
 告ヨリ

〔〇四七B〕

償ハ七余ハ原告ノ損失ト為シ互ニ旧ニ復シ調和可致旨夫々及
 理解候処一同承服ノ上来二月迄ニ皆済可致旨示談行届済口
 証書差出し解訟願出候ニ付伺ノ上聞届候事^{*}

十月五日 済

*¹ 朱書きのバツ印あり

*² 明治四（辛未、西曆一八七二）年

*³ 母里藩（縣）は、出雲能義郡におかれた藩。松江藩の支藩、
 一万石。一六六六（寛文六）年宗藩松平綱正が弟隆政に分
 封立藩。以後、継続して廢藩置県に至る（高柳光壽・竹内

理三編『日本史辞典第二版』角川書店（昭和四九年）。明
 治四年七月十四日母里県。同四年十一月十五日に鳥根県に
 合併（勝田政治『廢藩置県―近代国家誕生の舞台裏―』二
 六八頁角川文庫（二〇一四年））

*⁴ 本丁は半紙の裏に書き貼り足して一部を折り込んでいる

*⁵ 本行の下半分は綴込みが深く判読困難

*⁶ 「錢」の誤記か

*⁷ 本件では、「貫文」と「文」が混在している

〔〇四八A〕【一四二】【山売事差纏一件】

明治六第七月二十二日出訴

一 出雲國能儀郡□□□□村S D助左衛門ヨリ
 同郡□□□村K M忠助へ掛り山売事差纏一件

（朱）

【第四百二十二号】

右訴答共篤ト取調候処去ル辛未十二月中^{*} K M忠助所持ノ
 林木価錢壹万式千九百十貫文ニテ議定相整内錢六千式百七十
 四貫文払込殘錢六千六百三十六貫文未年十二月中払済伐木
 取懸筈之処調金難出来度々日延相約シ壬申七月五日限^{**}

屹度皆済可致之処是又違約依テ売主KM忠助方ニ

テハ猶予無際限趣ヲ以右林木他へ転売助左衛門ハ

払込錢ハ損分至当之義ト申立買主SD助左衛門ハ

外仲間モ有之殊ニ意外不景氣ニテ調金難出来ニ

依リ種々頼談林木中分割売之義申入候テモ不行届

度々延期致貫候未悉皆調金目途相違致候故

無抛去転売候ハ、示談之上可取斗処無其義且破

〔〇四八B〕

談金ハ初メ條理ノ内金渡三百三十貫文丈ケ損分可致間其余ハ

相当利子差加受取度段申立差纏相成候処右ハ度々

延期価錢皆済難相成上ハ相当破談金可差出ハ

勿論ニ候得共売主ニ於テモ通例破談金引残ハ差返シ

然ル後転売可取斗之処無其義依テ今般更ニ当国

商人慣習ニ依リ一割ノ損金三十五円八十六錢一厘ヲ差引

残金百三十八円四十二錢八千申七月可差返筋ニ付同月より

当九月迄相当利子差加本月中ニ皆済可致旨

夫々及理解候処一同承服ノ上済口証書

差出候ニ付伺ノ上聴届候事

〔〇五〇A〕【一四四】【貸金滞差纏一件】^{*}

明治六第七月二十七日出訴

一 出雲國秋鹿郡□□農日乙運藏ヨリ同國同郡

^{*} 明治五（壬申、西曆一八七二）年

〔〇四九A〕【一四三】【絶交和解願一件】

明治六第七月二十二日出訴

一 出雲國飯石郡□□村MY政右衛門ヨリ同村
本家MY与九郎へ掛リ絶交和解願一件

〔朱〕
【第四百十三号】

右一件未タ取調前親類組合之者共扱ニ立入和陸相整吟味下
願出候ニ付伺之上聞届候事

八月二日

^{*} 朱書きの大きなバツ印あり

^{*} 朱書きのバツ印あり

^{**} 明治四（辛未、西曆一八七二）年

明治六年五月下流ヨリ（鳥根懸）聴訟課 『訴訟事件銘細録』（第二号ノ二）について（二） 八六（八六）

□□村農A D仁平へ掛り貸金滞差纏一件

(朱)

「百四十四号」

右篤卜取調候処原告申立ニハ去ル庚午年十一月^{*3}□□村所助
養男

N M末四郎造酒元手金ニ差支A D仁平扱ヲ以原告連藏方へ頼入
銭式千三百貫文借受期限返金無之種々及懸合候処A D仁平所持ノ
畑地質物ニ致候間貸延し呉候様依頼無抛壬申三月^{*4}証書出来候処

又候違約申出難渋ニ付速ニ元利共受取度段申立被告

A D仁平よりハN M末四郎依頼ニ付庚午十一月中銭四千貫文

世話致し遣し持地書入置候処期限本人調金難出来金主分

敬敷催促ニ預り持地書入置候廉ヲ以不得止田地一ヶ所

壳払保証ノ元利立替然ル処当式千三百貫文末四郎の借財

可引受趣懸合ニ預り候へ共承引不致質地約定ノ証文

等ハ兼テ不存旨申出候ニ付双方申口齟齬致シ証書

篤卜取調候処本人A D仁平受人平兵衛共無対

〔〇五〇B〕

旧庄屋名ノミ調印ニテ証書ト難致依テ右ハ取揚准理

不相成段伺ノ上申聞書面下ケ渡候事

九月十二日 済

*1 朱線で本件記録全体が囲まれている
*2 朱書きのバツ印あり

*3 明治三(庚午、西曆一八七〇)年

*4 明治五(壬申、西曆一八七二)年

〔〇五一A〕【滞金(差纏)一件】^{*1}

明治六第七月二十七日出訴

一 出雲國神門郡□□浦雜T N信右衛門ヨリ伯州會見

郡□□村商F Y勘四郎へ掛り滞金一件

(朱)

〔〇百四十五号〕

右者慶応二寅年中^{*3}取引之義ニテ丁卯十二月晦日^{*4}
以前ニ係ル事件ニ付難取揚旨伺之上願出下ケ渡候事
八月廿三日

*1 朱線で本件記録全体が囲まれている

*2 朱書きのバツ印あり

*3 慶応二(丙寅、西曆一八六六)年

*4 慶応三(丁卯、西曆一八六七)年

〔〇五二A〕〔一四六〕【夫婦離縁差纏一件】

明治六年七月廿日出訴

一 出雲國島根郡第二区□□町FK正助ヨリ

□□町T儀三郎へ掛り夫婦離縁差

纏一件

(朱)

〔百四十六号〕

篤卜取調候処去壬申四月中^キ正助妹よ^五祢ナル者ヲ世話人ニ有之

T儀三郎妻ニ差遣候処同人酒興ノ上余リ不條理ノ取扱不

少往々熟縁ノ見世無之ニ付離別いたし吳候様申立被告

T儀三郎よりハ妻よ祢本心ニテ離別ヲ請ヒ候義ニハ無之

他今申遣メ不熟申立候故離別難致段申立差

纏相成候義之処原被共夫々理解および居候内

双方組合之もの仲濟ニ立入離縁ノ上向後何方へ

縁付候共異存無之段相對示談行届吟

味下ケ願出候ニ付伺ノ上聴届候事

〔〇五二B〕

九月十九日 済

〔〇五三A〕〔一四七〕【受判之儀ニ付差纏一件】

明治六年七月廿八日出訴

一 出雲國楯縫郡□□町農KS得兵衛ヨリ

〔同姓恭二郎組家内へ掛り受判之儀ニ付差纏

一件

(朱)

〔百四十七号〕

〔十月廿四日 願下ケ〕

〔〇五四A〕〔一四八〕【貸金出入一件】

明治六年七月二十八日出訴

一 出雲國神門郡□□町□□分KS唱生

ヨリ同國島根郡松江□□町IZY大七へ掛

貸金出入一件

(朱)

〔〇百四十八号〕

〔十二月十四日 済〕

*1 朱書きのバツ印あり

*2 明治五(壬申、西曆一八七二)年

明治六年五月下流ヨリ〔島根縣〕聴訟課『訴訟事件銘細録』(第二号ノ二)について(二)

八四(八四)

〔〇五五A〕〔一四九〕【銚差引出入一件】

明治六年七月廿八日出訴

一出雲國能儀郡□□村農AD嘉平ヨリ同國

元母里藩鉄方役所へ掛リ銚差引出入一件

(朱)

〔百四十九号〕

(朱)

〔十月五日願下ケ〕

〔〇五六A〕〔一五〇〕【為替入金出入一件】

明治六年七月二十九日出訴

一出雲國神門郡□□町商SK林右衛門ヨリ伯州會見

郡□□町商YM貞市へ掛リ為替入金出入一件

〔〇〕(朱)

〔〇百五十号〕

右者一応取調候処事実相違無之様相聞候ニ付

伺之上鳥取縣へ願入差添人共一同差遣及懸合候

事

其後十一月十日鳥取縣ヨリ無証之爭論ニテ難取上旨ニテ

別紙之通申来ル

其縣御管下出雲國神門郡□□村SK林右衛門ヨリ
当管下伯耆國會見郡□村YM貞市へ還リ為替

〔〇五六B〕

入品自依ニ被売捌之訴先般一ト通り取糺之上難取上
筋ニ付訴答状共下ケ渡シ婦村申付其旨及御回答置候処
尚又取調手續等御了承被成度趣ニテ再御懸合之件ニ
委細致承知候然処右ハ元来平常熟和之際物品売買
之上ニ於テ條約交付等不致候故即御掛合文中林右衛門口供
之通り百般両情乖戻事理錯綜致シ判然明晰難相成
就而ハ無證據之爭訟ハ採用難致筋ニ付双方トモ
懇諭之上其旨趣申渡シ訴答状トモ下ケ切候儀ニ有之尤
右等之事情ニ付取調之順番手續等別紙申送候程之廉モ
無之候間左様御承知有之度候此段御再答候也

明治六年十一月七日

〔〇五七A〕〔一五一〕【金談差纏一件】

明治六年七月三十日出訴

一出雲國意宇郡□□町雜I茂三郎同郡□町工

H宗兵衛へ掛リ金談差纏一件

(朱) 「〇百五十一号」

(朱) 「十二月四日 済」

(朱) 管下播州姫路□□BB矢三郎ヨリ第七區意字郡□□町
「未決」貫属士族YM□一郎へ係り金談差纏一件

(朱) 「百五十三号」

(朱) 「右及理解一旦承服之上擅ニ帰国候ニ付飾磨縣へ
懸合中也」

〔〇五八A〕【一五二】【八幡社敷地差纏一件】*

明治六年七月三十一日出訴

一出雲國秋鹿郡□□村□□分八幡社敷地差纏一件

(朱)

「百五十二号」

*1 朱書きのバツ印あり

*2 飾磨縣。明治四年設置。今の兵庫県姫路市城東町・市之郷
付近。前身は姫路縣。明治九年兵庫縣に合併され飾磨縣は
廃止された

右ハ地所不相分ニ依テ判然取調具候様トノ願ニテ
聴訟ノ調ニ無之間租稅課江書類相廻ス印

(朱) 印

*1 朱線で本件記録全体が囲まれている

*2 「大村」「鶴岡」の丸朱印

〔〇六〇A〕【一五四】【売物差纏一件】

明治六年七月三十日出訴

一出雲國第六區□□町HD助三郎ヨリ同國同區□□町TY
林之助へ係り売物差纏一件

(朱)

「百五十四号」

〔〇五九A〕【一五三】【金談差纏一件】

明治六年七月三十一日出訴

一出雲國第六區意字郡□□町KD儀右衛門方寄留飾磨縣*

明治六年五月下流ヨリ「島根縣」聴訟課「訴訟事件銘細録」(第二号ノ二)について(二)

八二(八二)

右者未取調前類中組合等取扱差押之品差返候ニ付吟味下

願出ニ付伺之上聞届候事

八月四日

朱書きのバツ印あり

〔〇六一A〕【一五五】買米差纏一件

明治六年七月廿五日出訴

一出雲国神門郡□□村Y M菊助より同郡□□町I Y

(米) 重兵衛へ掛り買米差纏一件

〔〇〕

(米) 「百五十五号」

右篤卜取調候処被告I Y重兵衛義約条通売米何時ニ而モ相渡候
へ共

買主Y M菊助并ニ□□町商M F庄之助兩人故仲間差纏有之哉

庄之助ヨリ残米不相渡様頼談ニ付買主兩人立会之上ハ可相渡段

申立依テ原告兩人権糾およひ候処Y M菊助申立候ニハ

素ヨリ知己ノ事故当一月以来仲間売事仕相互ニ

決算等モ不致置尚又当四月二日中分之積ニテ蔵米六百俵

I Y重兵衛より買受内式百俵ハ中野村上納の方へ相廻シ

利益等ヲ配当之積且同郡□□□村蔵米五十表^(マ)表^(キ)

庄之助借受候分菊助へ直段不取極引受候得其段々差引

有之故金子不相渡然ル処同五月中庄之助耆人ニテ米式百俵

無断I Y重兵衛へ受取他へ売渡且庄之助関係無之

□□村T S庫八郎へ取引勘定其外共悉皆同人へ引受差引

諸々シテ決算之義申出尚又前出□□□村蔵米五十表モI Y

重兵衛より買米六百俵ノ内渡杯卜違約申懸候ニ付難受人依テ

〔〇六一B〕

残米式百俵ハ自分へ引受外差引勘定ハ跡廻シ致度段申立相手M F
庄之助よりハ最初I Y重兵衛より受取候式百俵ハ則菊助分ニ相
当り

候間残米之内式百俵直ニ五月中受取其後□□□村蔵米五十俵

菊助へ相渡候故残り五十表ニテ條約ノ三百俵ハ相済依テ残米

百五十表ハI Y重兵衛より自分へ受取致且T S庫八郎へ

菊助より出銭之分ハ本人共立会之上差引可致趣悉

皆承知乍罷在及違約候段申立候得其双方共証書

証書更ニ無之素より仲間売事ノ義故現在残米

式百俵モ中分シ最初兩人ニテ受取候式百俵利益モ等ク

配当シ四月中□□□村蔵米五十表菊助へ受取候

分ハ同月中平均相場ニイタシ五月中庄之助耆人ニテ

I Y重兵衛より受取候米式百俵モ同月中平均相場ニ

イタシ利益等ク配分シ元手出金多少モ可有之ニ付

相互ニ出金ノ日ヨリ加利子正算^(マ)イタシ其余一月以來
未決算ノ分ハ無証書之義故難取揚依テ
相互ニ正□示座可取期□庫八郎へ可払出分ハ
本人菊助より返償可致旨及理解候処一同承
服之上〔以下、欠落か?〕

* 「表」の表記は以下同じ

〔〇六二A〕【一五六】【業業損金割合差纏一件】

明治六年八月四日出訴

一 貫属士族TM正登ヨリ出雲国第七区意

〔米〕 宇郡□□雑業IG百次郎外一人へ係り業

〔〇〕業損金割合差纏一件

〔米〕

〔〇〕第百五十六号〕 奉 鶴岡 少属

取調候処去ル未年中* 仲間商法議定証為取替原
告TM正登所持之屋敷地書入資本金他ヨリ借受
生蠟製造之義素ヨリ不馴之事故銭式千五百貫文
余ノ損分与相成候故其俣休業罷在候処債主ヨリ

明治六年五月下流ヨリ〔島根縣〕聽訟課『訴訟事件銘細録』(第二号ノ二)について(二)

八〇(八〇)

嚴敷督責ヲ受原告正登壹人ノ迷惑ニ至リ難決
ニ付相当割合損金速ニ取立度段原告ヨリ申立
〔〇六二B〕

被告ヨリハ諸勘定而ハ關係不致唯使役被致候迄ニ付
損金割合出金難致段申立候得共初發同一ノ仲間商
ニテ損分相立候上ハ無拋義ニ付仲間人員相当割合
損金ハ早々原告へ相渡済方可取斗旨及理解候処
一同承服更ニ明治七年一月ヨリ利子ヲ加へ四月三十日
限り皆済可致積ヲ以済口証書差出之

明治七年一月廿四日 解訟

* 明治四(辛未、西曆一八七二)年

〔〇六三A〕【一五七】【貸金滯差纏一件】

* 明治六年八月十二日出訴

一 出雲国第廿六区飯石郡□□村農SO源藏〇

榑縫郡□□村農NI金三郎外壹人へ掛り貸金滯

差纏一件

〔米〕

〔第百五十七号〕

原被共篤ト取調候処原告申立ニハ去ル明治三庚午年[※]榑縫郡□□
村莊屋N I 金三郎

公納滯金有之大中莊屋ヨリ嚴敷掛合ヲ受ケ其砌S O 源藏ハ貸金有之
返濟方及懸合調金難出来趣ニテ同人所持ノ山林一ヶ所質地ニ相渡
置度

段申出候ニ付其旨旧郡役人へ申入候処則聞届名代莊屋N O (長岡)
臺三郎

質地改トシテ罷越改濟ノ上大莊屋K S 得三郎名宛ニテ右山林書入
本人

源藏ニテ錢貳千貫文借用証文ニ致置無程N I 金三郎病死自分義ハ
親類且保証人ノ事故財主ヨリ嚴重催促ヲ受公納滯ノ義無扨

本人N I 金三郎所持品不殘売却不足ハ弁償致候場合ニ付右S O
源藏分貳千貫文ハ自分へ可受取趣ニテ則証書モK S 得三郎ヨリ

取置尚当三月中源藏より添証文等モ受取置候得ハ約定通元利
為払出引受ノ公納滯皆濟致度段申立被告S O 源藏よりハ

素ヨリN I 金三郎へ取引等一切無之候得共別懇之間柄同人公納
滯ニ差迫リ身分難立行場合故当分貸付致呉候様厚ク被相頼不得止

事情ニ付実意ヲ以地所借遣シ尤急速右質地金三郎より受戻シ更ニ
迷惑ハ

不相懸趣ニ付入魂ノ場ヲ以何ノ証書モ不取置貸遣シ其後無程本人
金三郎

〔〇六三B〕

病死候得共大中莊屋并取扱候N O 兔三郎悉皆承知罷在候義故不都
合ハ

少モ無之事ト存シ是迄捨置当三月ニ至YN 忠右衛門ヨリ右掛合ヲ
受ケ

驚人早速出張可及示談存候へ共病中ノ事ニテ不任思依テ不取敢
三百貫文為持代理人差遣候処不案内ノ者故始末難相分別証

書ヲ以種々掛合ヲ受一時心得違ニテ元利錢貳千七百貫文余可払出旨
添証相渡候趣其後自分全快ニ付再出張右始末及掛合候へ共

不行届金三郎ハ病死候義ニテ同人より証書ハ不取置自分本人借用
証入置候義

故無扨候得共金三郎家作備錢千四百八十貫文ニテ銀主K S 得三郎
方へ

相渡候趣ニ就テハ則右貳千貫文ノ内払筋ニ付右ヲ差引殘金ハ弁償
仕度其余ノ公物滯ハ更ニ關係無之依テ家作代金他へ振向ケラレ候

テハ必至難渋ノ趣申立差纏相成候処右ハ本人金三郎病死公納滯ニ付
訟前売却尚不足ハ親類且保証ノ廉ヲ以YN 忠右衛門ヨリ弁償ノ場合

ニ至居候へハ家作売却代金悉皆S O 源藏方へ差出シカタキ情実モ
有之

被告妹尾源藏方ニテモ証書ハ無之候得共取扱人旧取引莊屋当時□
□村副戸長

N O 兔三郎扱金ニテ相違無之貸質ニ候へハ金三郎家作払代悉皆忠
右衛門へ難相任情実モ有之且K S 得三郎方へ差入置候証文ハ全文中

金三郎公納滞引当ニ相成ヘキ文意無之通例借用証文ノ義ニテ確証
文意ト

真ノ事実ト原被共齟齬致居本人金三郎家作売払代金悉皆一人ハ相
渡筋ニハ

無之双方關係ノ義ニ付備錢千四百八十貫文ノ内七百四十貫文ツ、
忠右衛門源藏兩人ヘ

等ク配分シ其余不足ノ分ハ兩人損分トシ忠右衛門ハ保証人ノ事故
公納滞皆済シ

源藏ヘ証文面ノ内七百四十貫文ヲ引殘千二百六十貫文元利約定通
可払出旨

夫々及理解候処一同承服ノ上濟口証書差出候ニ付何ノ上聞届候事
八月廿五日 済

※ 朱書きのバツ印あり

※₂ 明治三(庚午、西曆一八七〇)年

〔〇六四A〕【一五八】〔縁談差縫一件〕

明治六年八月十二日出訴

一 出雲国稲縫郡□□村F I 善十ヨリ同郡□□町

F I 運平跡ヘ掛リ縁談差縫一件

明治六年五月下流ヨリ〔島根縣〕聽訟課『訴訟事件銘細録』(第二号ノ二)について(二)

七八(七八)

〔〇〕^(朱)

一〇 第百五十八号

〔〇六五A〕【一五九】〔家相統差縫一件〕

明治六年八月十二日出訴

一 出雲国島根郡□□町KG たんより意宇郡

□□町NS 雷助妻まさへ掛リ家相統差縫

一件

〔朱〕

〔百五十九号〕

〔朱〕
〔十月十九日 済〕

〔〇六六A〕【一六〇】〔旧神主為敷地差縫一件〕

明治六年八月九日出訴

一 出雲国大原郡□□村頭百姓ヘ掛リ同郡□□

村旧神官K Z 清延ヨリ旧神主為敷地差縫一件

〔朱〕

〔第百六十号〕

〔〇六七A〕【一六一】【銀談差縄一件】

明治六年八月七日出訴

- 一 出雲国意宇郡□□町商KT健藏ヨリ西京府烏丸通りTN勘兵衛外一人へ掛り銀談差縄一件

(朱) 〔〇第百六十一号〕

(朱) 〔十二月十日 済〕

- 一 出雲国神門郡□□□□本部神官SWB三舟ヨリ別ノ□□□□運右衛門不正之土地致候ニ付歎願一件

(朱) 〔第百六十三号〕

右者租税課扱之件ニ付同課江廻ス

*1 朱書きの線によって本件記録全体が囲まれている
*2 朱書きの斜線

〔〇六八A〕【一六二】【拂落場差縄一件】

明治六年八月十二日出訴

- 一 出雲国島根郡□□町IM善右衛門より同町□□村多之助へ掛り拂ヒ落場差縄一件

(朱) 〔第百六十式号〕

(朱) 〔十月七日 済〕

〔〇七〇A〕【一六四】【貸屏風差縄一件】

明治六年八月九日出訴

- 一 出雲国意宇郡□□□□町商MY永左衛門今島根郡□□町KKY平左衛門へ掛り貸屏風差縄一件

(朱) 〔〇〕 (朱) 〔第百六十四号〕

〔〇六九A〕【一六三】【不正之土地致ニ付歎願】*1
明治六年八月七日出訴

取調候処嘉永年中*MY永左衛門所持ノ屏風一 双兄弟ノ間柄
故被告平左衛門へ渡置処同人病弊ニ及ヒOS伊右衛門ヲ以MM林
左衛門へ

質入致期限不受返ニ付榑縫郡□村YN軍太郎へ金八両ニ売渡
其後數年ヲ経元主永左衛門ヨリ取戻之儀及懸合依テ被告ヨリ

買主軍太郎へ依頼元金ヲ以元戻可致筈之処軍太郎病死

同人伴軍太郎ヨリハ難差返段申立原告ヨリハ取返方平左衛門へ

頼ニ及掛合被告ヨリ親戚事故畢竟双方ヨリ短冊等モ出シ合

屏風相拵候故手許ニ差置其後病弊ニ至リ姪伊右衛門ヲ以林左衛門へ

質入期限之節調金難出来依テ事情永左衛門へ及相談 処

可捨置旨ニ付終ニ林左衛門ヨリ軍太郎へ転売被致數年之後

〔〇七〇B〕

種々苦情申出候間買主軍太郎へ及依頼処元価ニテ可差返

旨ニ付買戻之上可相渡積ニ候得共不埒明故ト申立尚YN軍太郎

及守而処容易ニ難差返段申出然上ハ素々親類間柄故右場

合ニ至転売數年相立今更致方無之乍去被告平左衛門

伊右衛門両人品物為売渡ハ不都合ニ付相当代価ヲ以済方可致

旨夫々及理解候処一同承服之上金拾円ヲ七年一月二十日マテニ

被告兩人ヨリ原告へ払出積ヲ以済口証書差出之

明治七年一月十五日 解訟

※ 嘉永（西曆一八四八〜一八五四）年

〔〇七一A〕【一六五】買米滞差纏一件

明治六年八月十二日出訴

一 出雲国大原郡□村MH豊三郎同郡□□村

〔朱〕KF仁左衛門へ掛り買米滞差纏一件

〔〇〕

〔朱〕第百六十五号

【IIの分読下し了】